

パブリック・コメントにおける意見の内容と県の考え方（案）

項目	意見の内容	県の考え方（案）
総論	<p>愛知県は国内でも有数の農業県で、食品に関わる企業も多いことから、愛知から食育の取り組みを発信していくのはとても大切な事だと思います。食育への関心は思いのほか多くの人を持っているにもかかわらず、実際に食育というものを意識して何かしらの行動に結びつけている人はなかなかいないという現状があるようですが、それは食育とは具体的にどういうものかが分かりにくいからではないかと思います。</p> <p>今回のプランの中ではライフステージと生活場面に応じた食育が提案されており、日常生活の中に組み込み易くなっているので、この取り組みを機に、多くの人々が食育に関心を持ち、実践出来るようになればいいなと思います。</p>	<p>新計画の記載のとおり、県民一人ひとりの食育の実践に向けて、農林水産業や食品産業が盛んであるという本県の特長を活かし、体験の充実などを通じて食への理解や感謝の念を育むとともに、多くの関係団体や地域で食育に取り組む人々の連携を図ることにより、日常生活のあらゆる場面で食育に触れることができるよう取り組んでまいります。</p>
総論	<p>プランを見たときの印象として、大学でも食育に関して学んでいる私は具体的に数値や行動目標の計画が多数上がっておりわかりやすいと思いましたが、私の家族でまったく食に関して学んでいないものからの感想では、もっと一目見てわかりやすいようにキャッチフレーズを付けて、だれから見てもわかりやすいように計画全般にインパクトを出すのはどうだろうか、という意見がありました。</p> <p>また、食育に興味がある人は多くなってきていると思いますが、行政としての食のイベントを開催すること自体を知る人もあまり多くはないと思いますので（私自身も行政にお勤めする方にお聞きして初めてボランティアの存在を知ったので）各大学や企業に行政の方側から呼び掛けするなどして、まずは愛知県として企画した食育の存在を、県民に知ってもらう機会を増やすことが大切ではないでしょうかと思います。</p>	<p>新計画については、第1次計画と同様、食を通じて健康な体をつくる 食を通じて豊かな心を育む 食を通じて環境に優しい暮らしを築くの三本柱を据えるとともに、新たに基本コンセプト「啓発から実践へ」を掲げており、これらがキャッチフレーズの役割を果たしています。今後、新計画の周知に当たっては、これらを前面に打ち出して説明していく予定です。</p>
総論	<p>計画はしっかりした内容です。しかし市民全体に周知してあるかどうか心配です。発信力をもう少し強くしたほうが良いと思います。これからならどのようにしたら多くの人に食育の大切さを伝えることができるか重要だと思います。私たちは料理を通じて食の大切さを子供達にことばと心の両面から伝えて行きたいと思います。</p>	<p>新計画の決定後、「あいち食育いきいきミーティング」として県内4か所で説明会を開催する予定です。</p>
総論	<p>（「生活協同組合 コープあいち」からの意見）</p> <p>旧めいきん生協と旧みかわ市民生協は昨年3月21日に合併し、愛知県全域に40万を超える世帯が組合員加入する生協「コープあいち」となりました。県下の生産者・JA等と提携し農産物や加工食品等を取り扱っていることから、愛知県や県下自治体との協力関係を強め、食品の安全確保と、食育活動の推進、消費者・生産者・流通・製造事業者の相互理解を高め、住民の安心できる生活を支</p>	<p>生活協同組合は、消費者の組織であるとともに、生産物の流通組織であり、具体的な食品を通じて食育の実践を進めることのできる団体であると認識しています。</p> <p>特にコープあいちは、めいきん生協、みかわ市民生協の時代から食と農を結び取組を積極的に展開していただいており、その姿勢に感謝するとともに、今後ともよき</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
	<p>えていく立場から意見を提出いたします。</p> <p>1. 計画案の全体的な意見</p> <p>(1) プランにある「体」「心」「環境」の食育の三つの方向が、以前のプランから独立した方向性の視点が示されていて、分かりやすくなったと考えます。「体」のなかではバランスから肥満予防、食品の表示にふみこんだ信頼の構築をあげています。</p> <p>(2) 又「心」の中では、楽しんで食べるという最も家族的な社会現象に対応し、体験交流の促進や食文化作法の継承支援はまさに今必要とされています。</p> <p>(3) 最後の「環境」視点からは、もったいない文化の実践、農林水産業の理解と促進と言う環境配慮に沿った提案になっていることも、コープあいちとしても、これまで組合員とともに取り組んできた実践事例(子育てひろば、食育活動、くいしんぼひろば等の取組み)とも共通して取り組んできたい内容と考えます。</p>	<p>パートナーとして、互いに協力・連携して食育推進を図ってまいりたいと考えています。</p>
1	<p><p7 成人男性に多い肥満と若年女性における過度な瘦身志向></p> <p>「瘦身志向が見られます」とありますが、何を根拠にしているか示して欲しいと思います。例えば消費生活相談で瘦身の相談件数が多いとか。</p>	<p>平成20年に県内約1,500名の大学生に実施した調査において、女性の約6割が「自分は太っている」と認識しているのに対し、実際の肥満女性は全体の6%に過ぎないとの結果がでています。</p> <p>なお、文中にその旨を追加記述します。</p>
1	<p><p7 依然として高い食に対する不安></p> <p>食に対する不安感が問題視されていますが、その不安に対して消費者として不安を解消するための行動や対策が示されていない。</p>	<p>食への不安感の解消のためには、消費者としては何より過剰な報道等に惑わされない正しい知識を持つことが第一であり、事業者としては信頼を得るために積極的な情報提供を行うことが必要と考えられるため、その観点から「県民の主体的な取組」や「県や関係団体等の取組」に記述しています。</p>
1	<p><p10 食を楽しむゆとりの確保に向けた社会全体での対応></p> <p>「社会全体での対応を図る」とあるが、漠然としている。もっと具体的に。</p>	<p>具体的に「仕事と生活の調和や男女共同参画を推進するなど、社会全体の…」とします。</p>
1	<p><p10 食文化や作法等を家庭で継承するための学校や地域による支援></p> <p>配膳マナー、箸マナーの低下は改善したいと思います。</p>	<p>新計画では、新たに食事のマナーや作法などの継承を掲げ、子どもの頃から保育所・幼稚園や学校などを中心に習得を図ることとしています。</p>
1	<p><p11 食べ残しや期限切れなどに伴う大量の食品廃棄></p> <p>食べ残しの原因は？ 何故食べ残しが出てしまうのか？も考慮して記述を。</p>	<p>食べ残しが生じる主な原因を記述します。</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
2	<p><p13 県民の意識・行動の変化> バランスのとれた食事をしている人は 45%。意識と行動の一致は大切です。大人の食意識を高めるべき。大人の意識がアップしないと、子どもはなおさらアップしない。</p>	<p>これまでの取組で、子どもの食育については進展が見られますが、大人についてはなかなか進展が見られないことから、職場や地域での取組の充実を図り、生涯にわたる間断のない食育を進めます。</p>
2	<p><p14 盛んな農業・食品製造業と豊かな食文化> 農業県とあるが、水産も盛んと思います。</p>	<p>水産業についても記述に盛り込みます。</p>
2	<p><p18 ライフステージと生活場面に応じた食育> 啓発から実践へ進めることに、とても重要な意味があると思っています。 図の中で、どのライフステージにも、「家族」または「親子」、また「地域」という用語も「学区」や「町内」という最小単位からのキーワードが入らないのでしょうか？ 大きく広げないで、実践すべき目標で一番大切なところを県民が共有できるようにすべきだと考えます。</p>	<p>図では、家族・親子が暮らす「生活場面」である「家庭」において、全てのライフステージを通じて食育を働きかけることとしています。 なお、各生活場面の説明文中に、親子や家族による家庭での食育推進についての記述や、学区や町内など身近な地域社会の重要性を記述します。</p>
2	<p><p18 ライフステージと生活場面に応じた食育> 生活の場面で幼稚園・保育所と学校がつながっていません。また職場もつながっていません。ぜひ繋げていただけないでしょうか。</p>	<p>保育所・幼稚園と小学校、あるいは大学と職場などにおける連携については、「県や関係団体等の取組」において、1-1の(1)アで「子どもの発達の連続性等を考慮し、(保育所・幼稚園と)小学校との交流や課題共有に努めます」と記述するとともに、2の(1)イで「大学側と企業側との交流促進などに努めます」と記述しています。</p>
2	<p><p18 ライフステージと生活場面に応じた食育> 生活場面として、児童館やコミュニティセンター・スーパー・産院や病院等の施設はお考えではありませんか？</p>	<p>児童館、スーパー、病院等については「地域」における生活場面の一つと考えており、「県や関係団体等の取組」においても、「児童館など地域の保育・子育て支援の場を活用し...(1-1の(1)ア)」、「食品販売店、学生・社員食堂等において...(1-1の(1)オ)」、「医療機関、薬局等において...(1-1の(2)オ)」など具体的に記述していますが、加えて、p18の「地域の役割」においても記述を追加します。</p>
2	<p><p18 ライフステージと生活場面に応じた食育> 乳幼児期・生活リズムを整えて食事前は空腹であること。朝は30分早く起きる、夕食前の間食は避ける。少しの努力で「食」を楽しく美味しいものにできる。3歳頃から「自分でもやりたがる」この興味を大切にしながら簡単なお手伝いから「食」への関心をもたせる。</p>	<p>御意見の趣旨については、「県民の主体的な取組」の「乳幼児期」において、「早寝早起きや睡眠等の生活リズム、基本的食習慣を身に付ける」、「簡単な調理や片付けの手伝いをする」として記述しています。</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
2	<p><p20 みんなでいっしょに進める食育> (「生活協同組合 コープあいち」からの意見) みんなでいっしょに進める食育では、真ん中に愛知県食育会議をおき、関係性のある連携協力団体の図式はこれまでより前進したものとなっています。 これからは、これらの「つなぎ」をどう作るかになってくると考えています。その中で県の役割としては、「広域的自治体として(市町村、教育、保育、社会福祉、医療・保健、農林水産業、食品産業等)と連携を蜜にしながら、県民運動として食育を推進します」とありました。 生協の組合員は「なんとかしなくちゃ!」とのボランティア精神で生協からの実費用補助を受けながら活動するグループが少なくありません。しかしながら一部のグループを除き、行政の窓口の関係や地域の諸団体との連携は、気持ちがありながらもなかなか実っていない現状があります。 地域の課題を地域で解決する取り組みとして、地域の中で地域の住民と諸団体が連携して一緒に解決をするネットワークを広げて行く事が食育も含めてこれから必要になってくると考えます。 コープあいちとしても地域コミュニティの関係をより強めることを目指し合併をして来ました。県行政、市町村との関係も今後強めて参りたいと考えます。</p>	<p>新計画では、各地域に「地域食育推進支援会議」を設け、地域の関係者の連携を進めるとともに、地域の多様な食育推進ボランティア等の連携についても具体化を図ってまいりますので、御協力をお願いします。</p>
2	<p><p20 みんなでいっしょに進める食育> 連携を図ると書いてあるが、各々の役割は書いてあるものの、どう連携するかが書かれていない。後述の取組でも、生活場面が表示されているが、例えば、学校ではどんな連携により、どんな取組がされるのかがわかりにくい。 場面ごとに取組内容や連携がイメージできるように、工夫があるとよい。</p>	<p>「 県や関係団体等の取組」に関して、食育に携わる多様な関係者の連携についてイメージできるような図を追加掲載し、理解の一助にします。</p>
3	<p><p24 食育の目標> 具体的数値目標について、食育に関することは数字だけでは計れないことも多く、数値化するのも困難であると思います。しかし、世の一人暮らしの方を見てみると食生活が乱れ、生活習慣病に罹ってしまう方もおられます。そのため県の取組や、県民の主体的取組だと思っておりますが、何かこういった問題に具体的数値目標を与えより細かく取り組むことはできないだろうかと思えます。</p>	<p>数値目標については、多くの関係者が共通の目標の下に協力して取り組むため、また取組の成果や達成度を客観的な指標により把握するために、主要な項目について、定量的な目標値を設定しています。</p>
3	<p><p24 朝食に野菜を食べている小中学生の割合> 野菜を食べるためには主食をご飯にすることをすすめたい。もっとご飯(米)を食べる子どもを増やしたい。これは食料自給率アップにも関係する。</p>	<p>日本の気候風土に適した米を中心に、農産物、畜産物、水産物等多様な副食から構成される「日本型食生活」は、栄養バランスに優れていることから、その実践を促進することとしています。</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
3	<p><p24 健康な歯を持つ人の割合> 国の「健康日本21計画」で目標としている「学齢期のう蝕予防」の目標である「12歳児における1人平均う蝕(むし歯)数(DMF歯数) 1歯以下」を目標としてはどうか。(WHOの口腔保健目標でも、12歳児のう蝕数の減少が提示されている。)</p>	<p>本県ではこの目標を既に達成しているため、別の目標を掲げることとしました。</p>
3	<p><p26 家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合> 1日最低1食家族や友人と一緒に楽しく30分以上かけて食べる。一人の生活者が多くなっている今、家族以外のひととの会食の目標は大いに進めたい。</p>	<p>現行計画では「家族等と一緒に…」としておりましたが、新計画では「家族や友人と一緒に…」と変更しております。</p>
	<p><p30 県民の主体的な取組> (「生活協同組合 コープあいち」からの意見) 年齢区分設定の中で要望があります。 少年・青年期(6歳から22歳頃)の区分は子どもの成長に合わせてもう少し段階があると良いと考えます。乳幼児期(6歳まで) 小学生まで(12歳) 中高生まで(18歳まで) 成年期(60歳まで) 壮年期(75歳まで) 高齢期(75歳以上)の6区分くらいのポイント別設定が時代の要求かと考えました。 特に、乳幼児期から小学校4年位までの“お手伝い”を素直に行える時期と小学5年以降の自立して行く思春期の時期などが食育にとって大変重要な時期でもあります。学校の栄養教諭の人数も市町村の現場では少ない人数であり、ここでの抜本的な強化が必要と考えます。 また高齢期をあえて75歳にしたのは、今後後期高齢年代が愛知県では大きく増える傾向にあり、ここでの食も大切になることが想定されるためです。</p>	<p>ライフステージの区分については細分化も検討しましたが、取組を具体的に書き出してみると重複する項目が多く、かえってわかりにくくなることから、4区分にしております。 今後、各世代に向けて取組の実践を促していく段階で、必要に応じて細分化を図ってまいります。 なお、御意見にありますとおり、小中学生においては発達段階に応じたきめ細かい食育が必要であることから、新計画では、各学校が「食に関する指導の全体計画」及び「食に関する指導の年間指導計画」を作成し、総合的・体系的な観点から各学年で指導すべき事項を定め、学校全体で食育に取り組むこととしております。</p>
	<p><p31 県民の主体的な取組(壮年・中年期～)> 「かかりつけ医を持ち、」としているが、「かかりつけ歯科医」も追加してほしい。</p>	<p>「かかりつけ医やかかりつけ歯科医を持ち、定期的に健康診断を受ける」に変更します。</p>
1-1	<p><p34 乳幼児期における基本的な食習慣の確立> (「生活協同組合 コープあいち」からの意見) 「体」の視点から・・・0歳児～3歳児までの若いお母さんを中心とした「子育て世代」は、健全な食生活の前に、目の前の子育てに四苦八苦しています。「食で一番大切なポイントは食べること、その工夫は食のプロセスに関わることです」(コープあいち非常勤理事小川雄二先生)といわれています。そこでは親子で一緒にすることが大切な視点と捉えられ、昨年より組合員活動の中で公募企画した「くいしんぼひろば」に参加されたお母さんからも、楽しく子どもの五感を活用しての食の取り組みに多くの声がありました。</p>	<p>新計画では、「乳幼児期における基本的な食習慣の確立」を項目として掲げ、地域の保育・子育て支援の場を活用した保護者への情報発信や実践促進を進めていきますが、その具体的な手法については、関係団体等の御意見もいただきながら、効果的な取組を実施していきたいと考えています。</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
1-1	<p><p34 学校における小中学生への食に関する指導の充実> 食を通じて、「健康な体をつくる」、「豊かな心を育む」、「環境に優しい暮らしを築く」ことができれば、県民のみなさんがいきいきとした生活を送れると思いますので、目標の実現目指して関係者からの啓発活動に期待します。</p> <p>一例ですが、啓発方法について、以前、子供が小学校から食育のパンフレットを持ってきたことがあります。子供に聞くと、先生からもらっただけと言っており、何の資料も全く理解していませんでした。せっかくの啓発資料ですので、手渡す際には学校から子供にちょっとした説明でもあればと感じました。</p> <p>今回の基本コンセプトに、「県民一人ひとりの食育の実践を関係者が支援して、県民が主体的に実践する取り組みにつなげていくとあります」ので、食育のよさが関係者から県民一人ひとりにしっかり伝わるようお願いいたします。</p>	<p>「食育のよさ」が県民一人ひとりにしっかり伝わるよう、例えば「県や関係団体等の取組」においても、1-1の(1)ウで例えば「小学校の入学説明会の際に基本的な生活習慣の確立を啓発する資料を配付し説明します」としています。また、各学校では、給食の献立表の他に「食育だより」などを発行していますので、資料配付の際はできる限り説明を添えるよう、取組に当たって留意してまいります。</p>
1-1	<p><p35 小中学生の食育のための家庭への支援> 小学生の食において、お菓子や菓子パン等でおなかを満たしている子がいる反面、毎食親のつくったバランスの良い食事をとっている子もいるという、摂取状況・食に対する興味にバラツキがある。親への食育ではなく、食に対して主体的に興味を持つように、小学生に対して深い勉強をさせた方がいいと思います。</p>	<p>食生活の基本となる家庭に対しては、親への食育と子どもへの食育の双方を行う必要がありますが、とりわけ子どもへの食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼす上に次世代の親となることから、学校における食育には力を入れており、新計画では、家庭や地域との連携のもとで学校全体で計画的・継続的に指導に取り組むこととしています。</p>
1-1	<p><p35 青年期以降における健全な食生活の実践の支援> 大学生協にて、学生食堂事業などを通し、食育活動に取り組んでおります。</p> <p>他の食育関係者と交流する機会もあるのですが、「大学生の食育は小学生とは同じようにはいかない」という苦勞を聞くこともあり、大学生協同様に、大学生へのアプローチについて課題を感じている方も多いようです。</p> <p>その中で、「県の食育推進計画」で、学生食堂でのアプローチの必要性を触れられていることは、大学生協にとって心強いことです。私どもが実践していることが、根付き浸透できれば、「食育空白時代」と言える大学時代も、少しは活性化されていくのではないかと思います。</p> <p>まだまだ一握りの学生ではありますが、興味関心を持つ学生も出てきて、主体的に活動を行おうとしているメンバーもいますので、大学生協として「学生主体の活動」を展開できるような仕掛けをうっていきたく考えています。</p>	<p>大学生の食生活については多くの課題があり、新計画にも様々な取組を記載しておりますが、中でも大学生協の持つ役割は大きいと考えています。今後とも食育推進に取り組んでいただきますとともに、県を始め関係団体との協力・連携により、効果的な取組展開を進めたいと考えています。</p>
1-1	<p><p35 青年期以降における健全な食生活の実践の支援> 学生に対する食育の活動は目に見えるところで行われていると思います。例えば大学生協の食堂においては、い</p>	<p>大学生への食育については、新計画では実践に向けた様々な取組を記載しております。今後、取組の実施に当たっては、効</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
	<p>たるところに食事バランスガイドが提示されており、バランスよく食事をとることが推奨されています。しかしながら、そのように食事を摂る人もあれば、摂らない人もいます。原因にはさまざまあると思いますが、知識の欠如、金銭的な問題が原因として挙げられると思います。金銭的な問題の対処法は思いつきませんが、知識に関しては幼少期からの取り組みが繋がると考えられます。貴庁の取り組み、プランは幼少期から総合的に知識が養われると思います。</p> <p>また、男性向けの取り組みが示されていますが、これは例えば技術が欠如していて、一人暮らしをされる方に特に有効と考えます。朝食の欠食や夕食を既製品や外食によって済ますのはこれが原因の一つになっているとも考えられますから、目標を達成するうえでも有意義と考えます。</p>	<p>果の高いものとなるよう皆様の御意見を伺いながら工夫してまいります。</p>
1-1	<p><p35 青年期以降における健全な食生活の実践の支援></p> <p>男性向けの料理教室や食育の機会を増やすことに賛成です。今はまだ男性のための料理教室はあまり普及していない印象が強く、参加しづらいという意見がある上に、一般的な私営の料理教室は参加費が高いこともあり、比較的参加人数の多い女性である私自身も参加がしづらい状況となっています。なので、行政がバックアップし、その分お安い値段で広く開催するならば男性も参加しやすいと思います。単身赴任の20代~50代の男性の朝食欠食率が高いことや、普段も外食に頼る割合が多いということも耳にしたことがありますので、必要な栄養素の知識の普及や料理の方法を知る機会が増えたら欠食率などの問題も改善しやすいのではと思います。</p>	<p>男性向けの食育については生活習慣病の予防の観点からも重要であり、料理教室は実践に向けた有効な手法と考えています。一般的な料理教室に加え、食育推進ボランティア等による地域での実施を推進するなど、参加機会の拡大を図っていきたいと考えています。</p>
1-1	<p><p37 思春期からの過度な痩身の予防対策></p> <p>思春期、妊婦の痩せは重要な問題。もっと大々的に取り扱うべき内容です。</p>	<p>女性の過度な痩身については、妊娠・出産時のリスクを高めるなど多くの問題をもたらすことから、思春期段階から予防に努めるように、科学的な根拠に基づいた啓発を行います。</p>
1-1	<p><p38 食の安全に関する信頼の構築></p> <p>食の安全に関する情報提供や意見交換において、特に牛肉、鶏肉の生食について、食中毒の危険性を訴えていただきたい。グルメ嗜好で生食を好むようであり、「生食用」と表示された肉が存在し、生レバーにおいては「生食用」は流通していないにも関わらず、焼肉のメニューには公然と表記されている。最近 TV アナウンサー、人気芸能人など影響力のある方々が番組を休んだ理由に「生肉にあたった」と平然と話している。たぶん前述についての知識がないのでは。そこで、事業者にはもちろん消費者にももっと肉の生食の危険性(0157、カンピロバクター)を啓発する</p>	<p>食中毒対策については、県の「食の安全・安心アクションプラン」で具体的な対策を講じています。</p> <p>新計画においても、「県民の主体的な取組」及び「県や関係団体等の取組」で説明しておりますが、今後も啓発に努めてまいります。</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
	<p>ことを希望する。カンピロバクターにおいては、その場限りの症状だけでなく、将来ギランバレー症候群へ移行する危険すらある。是非、今まで以上の積極的な情報発信を希望する。</p>	
1-2	<p><p39 給食や弁当を通じた豊かな人間性の育成> 竹下和男先生が進めてきた「お弁当の日」を愛知県ですすめていけたらいいと思います。子どもたちの食育に集団の力を利用すると、競い合い、学びあうという構図が生まれます。子どもに刺激され、親も育ちます。食べることのありがたさを知らない子どもに、口でどれだけ命の尊さを伝えても馬の耳に念仏です。竹下先生が進めた「お弁当の日」は、45都道府県、550校が実践したそうです(一度でも行なった学校も含まれており、継続的な取り組みになっているかは不明)。愛知県は豊橋創造大学短期大学部 中部コンピュータ・パティシユ保育専門学校の2校が取り組んだだけで、一番大切な学童期に体験していません。知識だけでなく、技術も身につけなければ実践できないと思います。県から、県内の小学校の校長に呼びかけ、実現できるようにしてほしいと思います。調理など、三河エリアであれば、コープあいちのコープアドバイザー(食育推進ボランティア登録)がお手伝いできます。また食育シアター等、積極的に行なっています。</p>	<p>「お弁当の日」は子どもに調理する機会を与え、食への感謝、親への感謝を育み、家族の時間を取り戻す取り組みと伺っています。昨年実施した「わが家のアイデア朝ごはん」コンテストは親子で一緒に献立を考え、子どもが一人で調理するコンテストで、朝ごはんとお弁当の違いはありますが、趣旨やねらいは同じものですので、今後もこの調理コンテストを開催し、子どもの調理に対する実践力を育てていきます。</p>
1-2	<p><p40 高齢者の孤食対策等> (「生活協同組合 コープあいち」からの意見) 共食の場づくりとともに、お弁当の宅配や買い物代行という食をつなぐ場面で、人と人のふれあいが実感できるようにしていくことが必要と考えます。共食の場は、その機会を多く作れない現状にあると思います。もっと日常的に頻繁にふれあいが持てる機会づくりが求められていると思います。</p>	<p>共食の場づくりは共食それ自体が目的ではなく、ご意見のとおり共食等を通じた「ふれあい」の機会づくりが大切です。 このため、表題を「高齢者の孤食対策等」とし、「また、配食サービスや買い物代行などにより、食を通じた人とのふれあいの機会づくりに努めます。」の記述を追加します。</p>
1-2	<p><p40 高齢者の孤食対策等> 高齢(ひとりに)になると食事を作る意欲をなくしてしまう。食べることと同等に作る意欲を持続できるといい。</p>	<p>「高齢者の孤食や食事をつくる意欲の減退に対応するため、」との記述を加えます。</p>
1-2	<p><p40 体験や交流を通じた食の理解促進> (「生活協同組合 コープあいち」からの意見) コープあいちの企画としても春の「田植え」、夏の「かかし作り」、秋の「収穫体験」と稲作等の体験交流が愛知県内各農協と協力して実施されています。その交流を通して見えてくることは、田植えは植えるというよりも生暖かい田んぼに入って最初は気持ち悪いが気持ちいいに変わってくる/どろんこになれてうれしい/農業の大変さを知った、などが思い出になっています。「参加すること」とは何かをしたという体験、より以上に子供達は多くのこ</p>	<p>新計画で「体験に勝る食育はありません」と明記しているとおり、今後は農林漁業や食品流通、調理等の継続的、体系的な体験の充実を図り、食に関する理解と感謝の念を育ててまいります。 とりわけ、生協や農協など協同組合による体験の取組には期待しており、県行政や市町村行政との連携を深め、地域に根付いた取組を進めてまいります。</p>

項目	意見の内容	県の方考え方(案)
	<p>とを学んでいるようです。</p> <p>今後も広げて行く上では、関係者(生産者・農家・農協・生協又は一般 SM チェーン・消費者・組合員)が取引に伴って個別に成立している取引関係から、行政側で主たる窓口と関係性をもって、地域性を伴った中で実施されることが良いと考えます。「食をいただきます」とは政策をもって「田畑の価値」をきちんと評価してもらえるような「つなぎ」の関係を組み立ていただけると、もっと生産者と消費者が身近になるように感じています。</p> <p>また、2012年を国際協同組合年として国連が宣言しました。県下の農協、漁協、生協、医療生協など、協同組合が各々の立場で県民に寄与できる関係性を作っていくことが、よりよい発展へつなぐと考えていますし、全国レベルの実行委員会(委員長は内橋克人氏)の取り組みに応じてこの愛知県でも活動を進めて参りたいと考えています。</p>	
1-2	<p><p40 体験や交流を通じた食の理解促進></p> <p>調理の実践について、少し触れてありますが、もっと積極的に打ち出すべきと考えます。豊かな心を育むためには、「食べる側」の心から、「作る側」の心になり、食べることを「感謝」する心を育てることが必要です。自分が今食べられるのは、作る人や飼育する人などがいて、運搬する人がいて、運搬するための車を作る人がいて・・・など、自分一人では何も食べられないことに気が付き、大切だと思ふ心を育むこと、また、その人たちに感謝の心をもつことが、とても重要ではないでしょうか。「食べる側」にいる子どもたちは、感謝の心が育ちません。子どもが調理をするには、親との会話は不可欠です。「危ない」「勉強があるから」などの理由で調理を実践させないのではなく、調理を通して、会話がはずみ、健やかな成長を促すことが必要と考えます。</p>	<p>乳幼児期・少年期における調理体験については、1-2の(2)において、生活の場面ごとにそれぞれ記述していますが、その重要性を強調するため、(2)の前文に「農林漁業を体験したり、実際に自分で料理をつくることにより、食べることへの感謝の心を育てるため、(家庭・地域...)」を追加します。</p> <p>子どもが調理する機会を設けることは、食への感謝の気持ちを育み、食の実践力を身に付けるためにも大変重要であると思えます。昨年は「わが家のアイデア朝ごはん」について、親子で一緒に考えた献立を募集し、調理コンテストを実施しました。</p>
1-2	<p><p41 幅広い層に向けた体験・交流の機会の提供></p> <p>生産現場を理解するためにもっと工場見学の一般募集があってもよいし、企画が少ないように感じる。生協として工場見学の機会を提供できると思います。</p>	<p>工場見学については、現場を体験し理解を進めるための取組として、実施を進めるとともに、その情報を広く提供するよう努めます。</p>
1-2	<p><p41 幅広い層に向けた体験・交流の機会の提供></p> <p>生命をいただくことへの感謝の心は、体験だけで終わらず、今日本全国に広がっている休耕地、農作放棄地を積極的に活用して、ファミリー単位で農作業にかかれる仕組み作りが必要だと思えます。</p> <p>食物の発芽から摂取・廃棄・再生・・・の循環を知ることが「食育」の目指す着目点の「体」「心」「環境」の全てを網羅できる「食」は『自分』の健康な体を作り、『人』</p>	<p>農林漁業体験については、レジャー的な体験ではなく一連の体験を進め、その延長として市民農園や農業塾などの取組も推進します。このため、「県や関係団体等の取組」の1-2の(2)ウで、市民農園や農業塾についても記述しています。</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
	を思いやる豊かな心を育て、『地球』環境にやさしい暮らしを築いてくれます。	
1-2	<p><p42 伝統料理、郷土料理等の提供促進と継承> ものすごいスピードで世の中は変わっているような気がします。だけど歴史は繰り返すみたいなどころもあるので食事に関しても昔に食べた物を思い出してみたり、ずっと残していきたい食事、特に家庭の味のような伝承料理を大事にしていく How To を得てゆきたい気がします。</p>	核家族化の定着などにより、家庭における食文化の継承が困難になってきていることから、地域社会としての継承を図っていくよう取組を進めてまいります。
1-3	<p><p43 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために> (「生活協同組合 コープあいち」からの意見) コープあいちとしては、店舗で発生した農産物の残さは資源再生ネットのグループで農家の堆肥に利用する循環利用、養豚の液状餌にしての食肉づくり、県内産の飼料米を活用した養豚飼料、養鶏業者との米たまどづくりなど購買事業としても環境や食糧自給率の向上を目的に取り組んでいます。 農林水産業のかかわりでは、コープあいちとして昨年行ってきたものの中に、「間伐体験」「山里体験学習」「海の生き物観察」などがあり、この分野でも子どもたちとも一緒に取り組める次世代型の学習活動もあるのでと考える。子どもを主役に置くことで、必ず参加には親がついてきます。企画応募も「子供が参加したいチラシ」で、「子供にせがまれて参加しました」・・・といわれる参加型が望ましいと考えています。</p>	環境に関しても、コープあいちの取組は参考になることが多いため、今後の具体的な展開に活かしてまいります。
1-3	<p><p43 環境に配慮した食生活の実践> 本プランは、食育推進の方向性、目標等が明確で、体系的・計画的に食育を推進する為の、とてもよい指針であると思います。 小学生の食育にかかわる立場から意見があります。 食と環境が深いかかわりを持っていることは、小学校5年生の家庭科で「エコ・ライフ・エコ・クッキング」として学習しているところです。「環境に配慮した食生活の実践」には、学校で取組を働きかける生活場面としての表示がありませんが、是非、学校での取組を進めたいところです。 本プランが示されましたら、創意工夫し食育推進に努めたいと思います。</p>	学校での取組の働きかけについては、すぐ上に「ア 子どもに対する環境負荷軽減の学習」として、別に項目をおこして取り上げています。
1-3	<p><p43 環境に配慮した食生活の実践> 食材の選択は、「金銭教育」も入れてはと思います。</p>	金銭教育は重要ではありますが、この項目は「環境への配慮」がテーマであり、金銭的な「もったいない」とは必ずしもリンクしないため、混乱を防ぐためにも記述は見合わせます。

項目	意見の内容	県の考え方(案)
1-3	<p><p44 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進> 県産農水産物の活用では、規格外の野菜の活用方法をもっと考えるべき。そうすれば農薬や化学肥料なども減らせるのでは？</p>	<p>規格外野菜等の活用等が図られるよう、新商品の開発などによる新たな需要開拓などを進めていきたいと考えています。</p>
1-3	<p><p44 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進> 「食育」から見える問題や課題は結果でしかなく、その背景をとりあげ連携し、県が横のつながりをつくる努力をしなければ改善のペースアップが図れない。県や関係団体等の取組をより具体的に指摘した方が良いと思われる。 さらに関係機関からの「食育」への関心度や取り組み姿勢にまで言及させてほしいと思った。例えば、本誌にあるように、ワークライフバランスが推進されないと孤食は改善されないし、「もったいない」という意識は、生産する側の努力や環境のことを考えることは必須であると思うが、世界の食(貧富の差)の不均衡を知ることでも必要で、国際理解を学校教育でも取り組んでほしいと思う。 計画策定や啓発する際に、いくつもの課題を提示するのはテーマが絞れていない、視点がずれる、と言われるが、我々の生活を支える衣食住の「食」が乱れてきた原因には、世の中の不均衡による犠牲が考えられ、どのテーマを取り上げてもしわ寄せが見えてくる。県だから取り組める広域の連携を望みます。</p>	<p>「県や関係団体等の取組」については、できる限り具体的に記載するようこころがけました。また、より具体的な取組については、毎年度、愛知県食育推進会議において県や関係団体の取組を確認しながら効果的な推進を図っていきます。 また、世界の食事情などの学習については、「県や関係団体等の取組」のうち、「1-3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために」の中に追加して記述します。</p>
1-3	<p><p45 フードバンク活動の普及啓発> フードバンク活動を、環境問題だけにとどめないで「もったいない」の所にも入れたい。</p>	<p>1-3の(1)は食生活における取組、(3)は生産サイドの取組として区分していますが、わかりにくいいため、(1)の表題を「食生活における「もったいない」意識の浸透と実践」とするとともに、(3)の前文も「...リサイクルの推進など、生産・流通する側も「もったいない」意識を持って環境への配慮を徹底するとともに、...」とします。</p>
2	<p><p46 社会人を対象として推進体制の充実> 私は栄養学科に在籍しており、大学で食の知識を学ぶ機会が多くあります。しかし同じ栄養学科に在籍する学生のうち、実際に食の知識や栄養士(管理栄養士)の資格を使って病院や保育園、学校など行政職として食に携わる仕事に就く人はあまり多くはなく、せっかく得た食に関する知識を眠らせたままになってしまう人も多い印象があります。そこで、行政の方から働き掛けてもらい、知識を必要な場に提供できる機会や、食の知識を伝える立場の人を増やしていただきたいと思います。例えば、愛知県で募集されているボランティアの存在を知る人もあまり多くはな</p>	<p>食に関する科学的な知識を持つ管理栄養士や栄養士の方については、食育推進の重要な担い手として期待しています。 具体的には、「県や関係団体等の取組」の2の(1)アで栄養教諭の配置促進を記述しているほか、同イでは、市町村への配置や企業での採用の促進を記述しています。また、同ウの食育推進ボランティアについても、募集情報が伝わるよう工夫することにより、その能力を活かす機会の拡大を図ってまいります。</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
	<p>いと思いますし、愛知県内での栄養教諭の配置もあまり進んでおらず、私の在籍する大学でも栄養教諭の免許を取得した学生のうちの1/20程度の学生しか栄養教諭として仕事ができないということでした。計画だけではなく実際に配置人数を増やし、採用人数を増やす、などの取り組みが必要だと思います。</p>	<p>なお、本県では、新規大学卒業者の栄養教諭としての採用は、平成21年度から行っており、全国的にもいち早く始め、毎年、教員採用選考試験を実施しています。</p>
2	<p><p47 愛知県食育推進ボランティアの育成と活動の充実> 地域にボランティアなどの活動団体を浸透させるために県は何をすべきか？行政が中継ぎすることで食育推進ボランティアは活動の幅がかなり広がると思います。情報を開示すると同時に、食育の現場となる学校、幼稚園等に食育推進ボランティアの活動を後押ししてほしい。県が中継ぎに入ることで信頼の度合いが違ってくると思います。</p>	<p>食育推進ボランティアの一層の活動促進を図るため、「県や関係団体等の取組」の2の(1)ウに記述しているとおり、行政によるコーディネートやリーダーの育成などの支援を行ってまいります。</p>
2	<p><p47 愛知県食育推進ボランティアの育成と活動の充実> 食育推進ボランティアの活用について、若い世代の参加ができるようになるといい。また、幼・保・小学校から要望が出るとよいし、そのコーディネートも必要。</p>	<p>食育推進ボランティアの働きは県民の食育実践の鍵となるため、募集の工夫するなどして裾野を広げるとともに、活動の充実を図ってまいります。また、学校等との連携を深めるための取組についても進めてまいります。</p>
2	<p><p47 食育に係る多様な人材の育成と活動の促進> 食育に関わりたい。子どもたちに関わりたいと思っている大人はたくさんいるのに、現状は関われない。関わっていない。保育園、幼稚園、小学校から食に関して要望を出してもらい、それに対応できる人材を送れるようなシステムが必要なのでは？</p>	<p>学校等での食育を一層効果的に行うために、地域と連携し、地域の持っている人的資源を活用することが必要と考えており、「県や関係団体等の取組」の1-1の(1)においても地域の人材の活用を掲げています。</p>
2	<p><p47 食育に係る多様な人材の育成と活動の促進> 食育に携る多様な人材の育成と活動の促進については、非常に良いことだと思います。身近に、食育について語れる人が増えると、自然と「食」について考える時間が増える。食に興味のない人に少しでも食について考え直す機会が増えると思います。</p>	<p>県民一人ひとりが身近な場面で食育に触れることができるよう、新計画では様々な取組を通じて、食育に携わる多様な人材の育成と、その活動の充実を図ってまいります。</p>
2	<p><p48 地域の活動主体同士の連携企画の促進> 行政がすすめている活動とコープあいちのアドバイザーが協働できたらいいと思う。</p>	<p>新計画では、各地域に「地域食育推進支援会議」を設け、地域の関係者の連携を進めるとともに、地域の多様な食育推進ボランティア等の連携についても具体化を図ってまいります。</p>
2	<p><p48 食育に関する情報発信の充実> 食育検定について、是非受けてみたいです。食に携わるより多くの方が受験し、口コミで広がれば検定の知名度も上がるでしょうし、食について考える機会が増えると思います。</p>	<p>本県が実施する「あいち食育いきいき検定」については、できるだけ多くの人に参加いただけるよう、23年度から実施期間を拡大することとしております。</p>
2	<p><p48 食育に関する情報発信の充実> 愛知県の「あいちの食育いきいきプラン2015」は細かな</p>	<p>食育の実践に向けての提案を広く県民に対して行う場合、地元の情報誌や新聞、</p>

項目	意見の内容	県の考え方(案)
	<p>配慮がなされていてほぼ完璧な出来だと思えます。計画は大変素晴らしく、あとは県民がこれを実施してくれることが一番大事なところだと思います。</p> <p>農林水産省が、時代の先端を行く女性ファッション雑誌「ヴォーグ」と連携し、朝ごはんキャンペーンに乗り出しました。非常に素晴らしいことだと思いました。おしゃれな朝ごはんメニューの特集で紙面を飾るなど、現代の若い女性の注目を集めていることでしょう。</p> <p>これに見習い、愛知県でも地元情報誌との連携や、地元のTV番組との連携を図られてはいかがでしょうか？</p> <p>お役所仕事から脱して、新しい県政に新しい食育キャンペーンを企画実施なさってはいかがでしょう？</p> <p>朝ご飯を抜く傾向にある若い女性の心をスパークさせるような企画を期待します。</p>	<p>テレビなどの活用は有効な手法であるため、新計画でも「県や関係団体等の取組」の2の(2)の工で、「マスコミの積極的な活用や…」と記述しております。</p> <p>取組の推進に当たっては、既存の枠にとらわれず、様々な広報媒体との連携を図って行きたいと考えています。</p>
2	<p><p48 食育に関する情報発信の充実></p> <p>特別意見はありませんが、食育劇と言う文字を目にしまして、息子の小学校で行った劇を紹介します。</p> <p>5、6年生の保健委員と給食委員が、委員会活動の時間と長い放課を利用して幼稚園の子供達が見ても分かる劇の練習をしました。指導者は保健の先生、栄養士の先生です。「よくかんでバランスよくたべましょう」と言ったことを10分程度の劇にまとめたものですが、食事は赤レンジャー(肉)、緑レンジャー(野菜)といったような正義の者、よくかむの悪者はゴックン魔王、コレイヤーダ女王といったように、レンジャーが、やっつけると言う内容でした。</p> <p>この劇を近くの幼稚園に出向き、園児達の前でしたそうです。うちの息子がたまたま保健委員で5年生だったのでやらせていただきましたが、自分でやってみんなの前で披露する方法は、話を聞くことも大事ですが、身につくような気がしました。時間を大切に使って、食育に関する委員会活動、とても上手に指導していただいているなあ・・・と思いました。</p>	<p>自分たちで劇を演じ、しかも小学校と幼稚園の連携を図っている、優良な実践事例です。このような取組を広く紹介し、各地で食育に携わる方々の参考にしていただくため、インターネットや冊子などによる情報発信を進めてまいります。</p>